

# 自征隊を我々の戦列へ!!

テロ隊に「銃口」が向けられる。日本人に、朝鮮人に、アジア人に、これは悪夢か。現実か。

「銃口」は、すでにテロ隊に向けられている。自征隊は公然とテロ、鎮圧の右母訓練の母を不とするのだ。その最中での「銃口の逆転」は、自征隊員にとっては、人間への愛の行為なのだ。「テロ隊我々の敵ではない」と小西三喜は、叛軍の行為を身をもって示した。「反安保、自征隊解体、国会議員の思想を、隊内部から訴えた。

自征隊は我々の敵か？

自征隊員隊との連携は可能か？

何々の自征隊員は、「自征隊」と同一ではない。国家力は、緊密的物理力として、武力装置として、人々の前に増強の一途をたどりつつしている。

国会の意思と無関係な二つで決定される戦略。

シロギの一騎としての自征隊員。

自征隊員が、「銃口」を逆転させる可能性を信じ、その方向で連携しようとするわれわれは、際限なく、ぎりぎりの生きる道の様相としてあるのだ。それは、人間性限の今日ある最後の行為でもあるのだ。

私達は又、「映画」叛軍」通信」(月二回の予定)なるものを発行する。それは映画行きの同伴者であると共に、同時に自立した価値を生み出そうとしてしているのだ。

日本全国にばらまかれている自征隊基地の隅々から、自征隊の存在の為に覚悟をこめて生きる人々の話を発見する。日常の小さな二つに二つだけ通して、ナマ身の声を絞り出そうと思つたのだ。

この通信に参加しよう。

自征隊員を我々の戦列へ!!

私達の行為を、実現しつづける為の力、パを!!

〈連絡先〉中野区鷹の宮三、九、二、わせ、住井上方

「映画」叛軍」通信」宛

映画「叛軍」通信ナンバー〇号紹介

- スタッフからの若手の報告
- 通信予告
- 友・らからの手紙
- 季衣足形の「ミ」運動を、
- 映画「叛軍」(後編) を出版させる為